269　軟部組織腫瘤の骨，ガリウムシンチグラフィ

二見繁美，陣之内正史，星　博昭，長町茂樹，大西　隆，清水勅君，渡辺克司（宮崎医大放射線科）

軟部組織腫瘤の画像診断における核医学検査の意義について検討した．対象は1987年4月から1991年3月までの4年間に軟部組織腫瘤の精査のため，骨シンチグラフィ及びガリウムシンチグラフィを施行した42例のうち組織の診断できた38例（悪性腫瘍20例，良性腫瘍17例，炎症性腫瘤 1例）である．骨シンチグラフィにおいて，骨あるいは骨膜浸潤を示唆する異常集積は 8例にみられ，内訳は悪性 7例（35%），炎症性腫瘤 1例であった．骨外集積は 9例に見られ，悪性 8例（40%），炎症性腫瘤 1例であった．ガリウムシンチグラフィでは悪性11例（55%），炎症性腫瘤 1例に軽度～高度の異常集積を認めた．骨，ガリウムシンチグラフィは陽性率が低く，他画像上悪性が疑われる例や経過観察に有用と考えられた．

270　喉頭癌における^{67}Ｇａシンチグラフィ

槇　俊也，小泉　潔，門澤秀一，山口元司，遠山敬司，大西　洋，大場　洋，可知謙治，内山　暁，（山梨医科大学放射線科）

喉頭癌における^{67}Ｇａの集積程度を４段階に分類し，腫瘍のＴ分類および治療効果，転移との関係を検討した。対象は組織学的に確認された喉頭癌50例、のべ件数は66件である。　未治療時における^{67}Ｇａシンチの陽性率はT_1　0／4（０%），T_2　5／15（33%），T_3　7／9（77%），T_4　6／6（100%）であった。治療後における^{67}Ｇａシンチの鋭敏度、特異度は各々　10／14（71%），17／18（94%）であり，癌の有無の判定に有用であると考えられた。リンパ節転移に対して，触診による判定は鋭敏であるが，特異性は必ずしも高くなく，特異度の高い^{67}Ｇａシンチを併用することは有用と考えられた。

271　上咽頭腫瘍における SPECTの応用

直井　豊，長瀬勝也，平野　暁，尾崎　裕，桑鶴良平，雨宮　謙（順天堂大学放射線科）
芳川　洋，深本克彦（順天堂大学耳鼻科）

上咽頭腫瘍の症例に対しSPECT を実施し、その有用性について検討する。　Ga-67 citrate 74MBq を静注し、48時間後に SPECTを実施した。　上咽頭腫瘍に Ga-67 citrate が集積することはよく知られている。しかし、上咽頭腫瘍ではシンチグラムを前後及び側面像で描出を行うと、上咽頭の部位は他組織と重複し、特に前後像では鼻部と重なり、鑑別は益々困難となる。この様な症例に対し SPECTを実施し診断を試みた。その結果 SPECT像では鼻部の集積と上咽頭の集積は容易に区別出来、その集積範囲も明らかになった。その他にも利点のあることを知った。更に、シンチグラムをCT像及び MRIとの比較を行ったので報告する。

272　ATLにおける^{67}Gaシンチグラフィの臨床的意義

松本美穂、冨口静二、高橋睦正（熊本大学放射線科）
中島功紀（八代総合病院放射線科）高木善和（NTT九州病院放射線科）西村弘道（ＮＴＴ九州病院内科）

ATLのリンパ節病変における^{67}Gaシンチグラフィの有用性について、悪性リンパ腫で報告と比較検討した。

対象症例は37例で、年齢分布は30才から78才（平均56才）である。　リンパ節病変は、病型別、部位別、腫瘍型別の陽性率及び治療前後における陽性率の変化について検討した。　病型別陽性率はリンパ腫型において最も高く、部位別では深部リンパ節の陽性率が高かった。　全体の陽性率は51%と悪性リンパ腫の報告と比較すると低いが、2cm以上の病巣についてはほぼ同等の結果だった。　^{67}Gaシンチグラフィは悪性リンパ腫の場合と同様、ATLにおいても有用と考えられた。

273　肺癌のＧａ-67ＳＰＥＣＴの集積度の半定量化に関する検討

野村曜子、山崎克人、山路滋、平井宏和、石井一成、北垣一、田中豊、白坂今日子、井上善夫、河野通雄（神戸大学放射線科）

肺癌のＧａ-67ＳＰＥＣＴの集積度の半定量化を目的として、以下のような検討を行なった。　ＣＴ用肺ファントムを用いて、環境効果や吸収補正に関する基礎的検討を行なった。次に臨床的検討として、肺癌患者を対象に、　Ｇａ-67ＳＰＥＣＴを施行し、その集積度について半定量的評価を試みた。さらにＧａ集積度とＣＴ、ＭＲＩとの対比を行なった。　肺癌病巣のｖｉａｂｉｌｉｔｙと集積度は正の相関がありＧａ-67ＳＰＥＣＴによる治療効果判定の可能性が示唆された。

274　上咽頭腫瘍におけるＴℓ-201 SPECT

戸川貴史，油井信春，木下富士美（千葉がんセ・核）
嶋田文之（同・頭頸科），小圷正木（茂原保健所）

上咽頭腫瘍は放射線治療後にもしばしば局所再発が見られる予後不良な疾患であり，ＣＴや後鼻鏡所見のみでは局所再発の有無を正確に診断し得ない場合が多い。当センターに新たに導入された高分解能SPECT装置を用い，Ｔℓ-201 SPECTが上咽頭腫瘍の評価に有用か否か検討した。ファンビームコリメータを装着した3検出器回転型ガンマカメラ（GCA-9300A）を用い，10例の上咽頭腫瘍に計11回のＴℓ-201 SPECT を行った。治療前の1例では病巣に一致したＴℓ-201 の集積亢進を認め，局所再発3例では再発部位に一致した高度のＴℓ-201 集積を認めた。放射線治療後の follow-up 例では陰性のものが多かった。Ｔℓ-201 SPECT は上咽頭腫瘍の治療効果の判定，再発巣の検出に有用と思われる。

Presented by Medical*Online